

農業の新しい働き方

～人材を確保するための農業の働き方改革の取組の必要性～

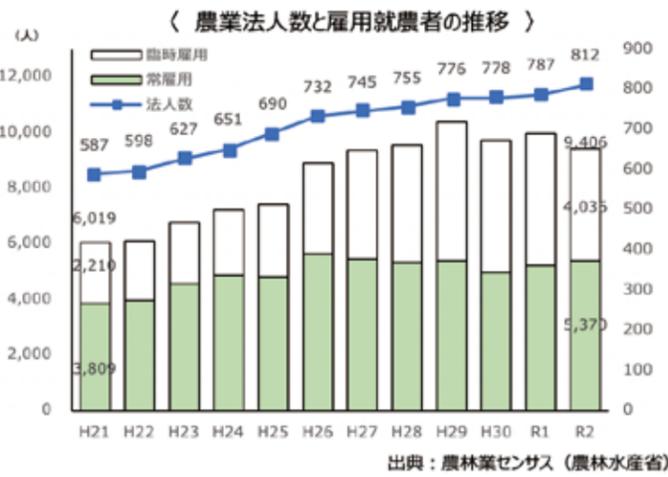
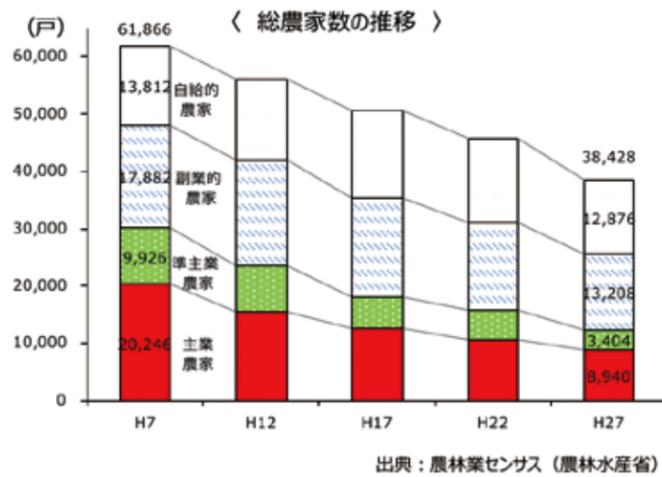


農業現場においても、このような声を聞く機会が増えてきました

今後、農業分野で人材を確保するためには、働き方を見直し、若い人・主婦・高齢者も働きやすい環境を整えていく「農業の新しい働き方」を実践していく改革が必要となってきています。

労働者の雇用環境の改善の取組は、地域や営農の種類、経営規模により様々ですが、小さなことから始めることが非常に大切です。

今回取り上げたモデル事例を参考に農業現場における「新しい働き方」の改革を是非はじめてみてください。



モデル事例取材協力

スイミー@みやこんじょ農業

令和2年度に設立された都城市・三股町の農業法人や個人経営体で結成された組織。相互の連携による人材確保等先進的な取組を実施。

Instagram



農の雇用・労力支援推進協議会

（事務局：宮崎県農政水産部農業経営支援課農業担い手対策室 参入支援・人材対策担当）

TEL：0985-26-7124 FAX：0985-26-7325

mail：nogyoninaite@pref.miyazaki.lg.jp

URL：http://www.ennou-miyazaki.com/

WEB サイト



みやざき 援農



「選ばれる農業」「選ばれる宮崎」へ

農業の

新しい

働き方

特集



農の雇用・労力支援推進協議会

南国興産株式会社



お話を聞きました!

昭和48年創業の南国興産は、畜産副産物を飼料や肥料などの資源として再生する循環型事業に取り組んでいる会社です。3年前に農業へ参入し、現在はアスパラガスとニラの栽培を行っている農業生産室の森元圭一郎さんと甲斐俊二さんにお話を伺いました。

農業部門の立ち上げについて聞かせてください

(森元さん)「地域農業の発展に貢献する」という企業理念と、肥料メーカーとして自社肥料の付加価値を追求したいという気持ちで農業部門を立ち上げました。ただ、自分も甲斐も含め、企業自体が農業初心者ですので本当に出来るのかなという不安はありました(笑)白紙からのスタートでしたので、1年目は計画や調査に費やし、2年目に甲斐が福岡にアスパラガス栽培の研修に行き、自分は土地探しを担当し、3年目によりやく農業生産を開始しました。



「自社肥料の効果を実感できるアスパラガスを作物に選びました」と甲斐さん



新しい働き方のここがポイント!

1. 品目の組合せによる年間作業の平準化
2. 分業化&機械化による作業効率向上
3. マニュアルによる作業レベルの平準化
4. 休みやすい環境づくり



農業高校出身の新入社員に指導する甲斐さん

アスパラとニラを選んだ理由は?

(甲斐さん)福岡にアスパラガス栽培の名人級の方がいて、弊社の肥料を愛用して頂いており技術協力が得られることや、水と肥料が大好きな作物なので、自社肥料のPRにも繋がるということからアスパラガスに決定しました。そして、年間の作業を平準化する目的で、アスパラガスの空き期間に収穫できる作物としてニラを選定しました。両方とも比較的価格が崩れにくいということも理由の1つです。

従業員さんが働くうえで工夫されていることはありますか?



ニラの外葉を取る「そぐり機」の導入で作業効率が大幅に拡大しました。

(甲斐さん)分業化により作業効率を上げることを目的に収穫を社員が担当し、出荷までの作業をパートさんをお願いしています。工程ごとにマニュアル表を作ってパートさんが迷わない工夫をしています。例えばアスパラガスの選別作業では、穂先の細かな状態を識別する必要がありますが、写真を使った規格表を壁に貼るようにしました。以前は口頭で伝えていたのでなかなか伝わらなかったことが、「見える化」することで作業品質が向上しました。また1日ごとに目標値を設定し、シンプルな作業の中にも達成感を味わってもらうことが大切かなと思っています。

(森元さん)パートさんの負担を軽減するため、機械の導入も積極的に行っています。ニラは収穫した後「そぐり」と言われる外葉を取る作業に手間がかかります。これまでは全て手作業でやっていましたが、今年度、大型の機械を導入し、洗浄や「そぐり」を自動化したことで作業効率が一気に上がり、パートさんのモチベーション向上にもつながりました。

勤務時間やお休みについて



アスパラガスの選別用の規格表を壁に貼り、パートさんが悩まない工夫をしています。

(甲斐さん)パートさんは基本的に週4日勤務です。子育て中の方もいらっしゃいますが、子どもさんの病気や学校行事などでも気にせず休める環境を提供できるよう配慮をしています。(森元さん)マニュアル化や機械化で、仕事を平準化することでいつ誰が休んでも皆でカバーができるようにしています。アスパラとニラの組合せで毎月の作業量が平準化でき、パートさんの安定した雇用につながっていることもあります。昨年、農業高校を卒業した新入社員も加わりました。若手を育てていくためにも「新しい農業の働き方」を今後も確立させていきたいと考えています。

これからの展望



森元さん(左)、甲斐さん(右)

(甲斐さん)普及センターの紹介で去年からアスパラ就農希望者の研修を受け入れています。僕がアスパラ栽培を教わった師匠は、アスパラに興味を持った若者達を指導し、福岡に100人以上の活気あるアスパラ産地を作り上げています。僕たちも都城でアスパラに興味を持った人達を支援することで輪を広げいき、「アスパラ王国」を作ること都城の農業の発展にも寄与していければと考えています。(森元さん)今後、栽培面積を4~5倍に拡大していきたいと考えています。それには従業員が働きやすい環境が作れなければ、絶対に成しえないと思っていますので、そういう意識で今後も環境づくりに力を入れていきたいと思っています。

社名	南国興産株式会社		
所在地	宮崎県都城市高城町有水1941番地	TEL	0986-53-1041
農業部門栽培面積	アスパラガス ハウス22a ニラ ハウス25a、露地20a	従業員数	6名(社員3名、パート3名) ※農業部門のみ

独自に開発したシステムによるスマート農業の実践で常に進化を続ける企業農業集団

農業生産法人 イシハラフーズ株式会社



お話を聞きました!

1976年に青果業からスタートし、宮崎の安全な野菜を全国に届けたいとの思いから冷凍食品事業に進出。自社農園で採れたほうれん草や小松菜などの野菜を工場加工し全国へ出荷しています。独自に開発したシステムで農場や作物の情報を一元管理し、高度なトレーサビリティを実現。常に進化を続ける企業農業集団、イシハラフーズ農産部の吉川幸一さんと石原祥子さんにお話しをお聞きました。

事業内容について教えてください

(石原さん) 冷凍野菜の製造販売を行っています。取扱品目は、ほうれん草、小松菜、枝豆、里芋、ゴボウなどで、栽培から加工、包装、出荷までを自社で一括管理しています。敷地内に残留農薬検査センターもありますので、農場ごとの残留農薬も検査しています。農場は約750箇所、年間作付面積は500ha。ほとんどの農場が工場から30分圏内にあるため、収穫後速やかに冷凍加工することが出来ます。従業員は全体で104名。そのうち農場で作物の生産を担当する農産部が18名です。加工や包装を担当する製造部が77名です。

農産部について教えてください

(石原さん) 以前は契約農家さんから野菜を仕入れて加工していましたが、18年前から自社栽培への切り替えを行い、2014年には自社農場100%になりました。契約農家さんの高齢化や担い手不足もあり、冷凍野菜の安定供給を図るための転換でした。その後も畑を借り受けたり耕作放棄地を耕したりと増え続け、当初100haだった自社農場が現在は5倍になり、18名の農産部メンバーで管理しています。



新しい働き方のここがポイント!

1. 社員全員にスマートフォン支給
2. スマートフォンにより栽培から出荷まで全ての情報をデジタル化
3. 社員は直行直帰
4. 勤務時間は自由設定
5. 農業機械の土足厳禁の徹底

どうやって少人数で広大な畑の管理をしているのですか?



畑に立ててある看板のQRコードを読み取って、作業記録を入力。畑の状況がリアルタイムに社内共有できます。

畑に立ててある看板のQRコードを読み取って、作業記録を入力。畑の状況がリアルタイムに社内共有できます。また、昔は大勢で手摘みで収穫していましたが、現在は収穫機を導入して、ほうれん草では5名で150aあたり約30トンもの収量を上げられるようになっています。他にも全自動や冷暖房完備のトラクターも完備して「畑に足をおろさない農業」の実現にも取り組んでいます。地面に降りるのは畑のQRコードを読み込む時くらいかもしれないですね(笑) また、機械を大切に扱って欲しいという思いから、トラクターなどは「土足厳禁」にしているのは弊社ならではの取組かもしれませんね。

「踊る大捜査線」が流れる工場!?



従業員みんなの工夫で工場内のラインはたえず改良されています。

(吉川さん) 自社農場が増えていく中で生育状況をしっかり把握するにはデジタル化が必須になり、自らシステムを作りました。農場全てに看板を立て、農産部員は支給されたスマートフォンで看板のQRコードを読み取って作業記録や生育状況、散布した農薬の量などを登録します。以前は会社に戻って日報を記入していましたが、今は直行直帰出来るようになり、作業計画に基づくノルマを達成すれば良いので勤務時間もそれぞれ自由です。畑の履歴や作業報告など全業務をシステム内で管理しているので、うちでは紙で出力する資料は無いんですよ。

また、昔は大勢で手摘みで収穫していましたが、現在は収穫機を導入して、ほうれん草では5名で150aあたり約30トンもの収量を上げられるようになっています。他にも全自動



収穫した作物をフォークリフトで持ち上げると自動で計算。スマートフォンでデータを入力します。

(石原さん) 工場は女性が多いのですが、みんな活発に意見を出し合います。例えば背が低い人が野菜の選別をする時に、作業しやすいよう工務の人が台を作ったりなど、どうしたら効率よく作業が出来るのかをそれぞれが考え、現場で改善していく、意見が言い合えるフラットな関係性が築けていると思います。面白いのは、工場内でトラブルが発生すると機械を停止させて調査をするのですが、その時の音楽が「踊る大捜査線」なんです。ハプニングも楽しんでいる雰囲気です(笑)

これからの展望

(石原さん) 農産部については、実家が農家の人などに学びの場として活用してもらってもいいなって思っています。大型免許など様々な免許取得も会社で支援しますし、最新型の農業機械やスマート農業など他にないことを体験できるメリットがあります。ぜひ女性にもチャレンジして欲しいですね。



自社システムを構築した吉川幸一さん(右)と運用をサポートする石原祥子さん(左)

(吉川さん) 頑張っている人がちゃんと評価されることがやる気にも繋がりますので、相互評価や面談、技術の確認などを定期的に行っています。やはり「良い物を作る」ということがうちの会社の1番重要な使命ですので、野菜のことももっと勉強をして、知識も育てていけるよう、教育や育成にも今後力を入れていきたいと思っています。



農産部の担当者が畑からスマートフォンで情報を登録。畑や作物の状況がリアルタイムに把握できます。

社名	農業生産法人イシハラフーズ株式会社		
所在地	宮崎県都城市下川東2丁目1号1番地	従業員数	104名
TEL	0986-25-2121		(うち農産部18名、製造部77名、検査室、その他9名)
栽培面積	500ha		

「定期的に休める」和牛農家のゆとりある経営を実現する「和牛定休型ヘルパー」事業で将来の担い手も育成!

Moo Company(モーカンパニー)



新しい働き方のここがポイント!

1. 畜産農家の新しい働き方を提案!
2. 将来の独立を後押し!

お話を聞きました!

左から農大生の森木君と牛のみっちゃん
飯盛将太さん、仁美さん

事業内容について教えてください

(将太さん) 実家の和牛農家で11年働いたのち、今度は農家をサポートする側に立ちたいと思い1年前に起業しました。きっかけは、実家に研修に来ていた森木君との出会いでした。彼は実家が農家ではなく畜産農家を目指しているのですが、新規就農するには土地代や牛舎の建築、子牛の仕入れなど最低でも数千万の初期投資が必要です。最初からそんな負担を負わせたくないという親心もあり、彼と一緒に何かできないかと考えていました。かたや、働き手が不足していたり夫婦経営で休みが取れない農家さんをたくさん見ていて、そこをうまくマッチング出来ないかなと模索していた時、「和牛定休型ヘルパー」というのがあること知り、さっそく視察について調査し、これを宮崎で実践しようと思った決意しました。



牛舎の掃除や餌やり、機械作業など真面目に取り組む森木君。時にはお子さん達とキャッチボールすることも。



「森木君は大変真面目で、来てくれて助かっています。」と話す業務提携先の堂領勝さん(写真右)

和牛定休型ヘルパーとは?

(将太さん) 畜産は生き物相手なので、年中無休です。昔はそれが当たり前でしたが、そのハードさが後継者不足にも繋がっている現状です。そこで畜産農家にヘルパーを業務委託して「定休」をとってもらおうという制度です。

(仁美さん) まず森木君をヘルパーとして受入れてくれる先を募り、4人の農家さんが賛同してくれました。この1年は農大に通いながら週数回7~8時間程度ヘルパー業務にあたってもらいました。この春からはうちの社員として働いてくれます。様々な農家さんのところでヘルパーをすることで技術の向上にもつながり、将来の独立の際にも役立つと考えています。

これからの展望

- ・地域の農家に幅広く利用してもらえるよう実績を積み上げていく。
- ・牛の除角や機械オペレーター業務、初妊牛の育成販売など事業の枠を広げ、畜産全般のサポートを担う会社として発展させる。
- ・後継者のいない経営体からの承継などを視野に社員の新規就農モデルを立ち上げる。

屋号	MooCompany (モーカンパニー)
所在地	都城市高城町石山 1664-1
TEL	080-5241-1712
従業員数	4名
事業内容	和牛定休型ヘルパー



肥料と米穀事業を皮切りに受託事業・青果事業へと事業領域を広げ 高齢化する地域農業を支える若き後継者

合名会社 児玉実次商店



新しい働き方のここがポイント!

1. 地域の困りごとに合わせた事業領域の拡大
2. 柔軟な勤務体系
3. 多様な品目の導入による雇用の安定化

お話を聞きました!

新しく建てた事務所で定期ミーティングを開催
左：児玉圭亮さん（兄） 右：児玉祥悟さん（弟）

事業内容について教えてください

肥料の小売や地域で採れた米を精米するライスセンター事業を長年担ってきた会社です。

後継者のいない農地を預かり稲作も展開し、できた米から出るもみ殻を再利用して自家製堆肥を作り、また水田に戻して栽培を行うという循環型農業も行っています。

近年働き手が不足している農家さんから作業依頼が急増し、田植えや稲刈り、ドローンで農薬を散布するなど幅広く受託しています。

自社水田は15haですが受託農地は100haほどになっています。

米穀事業だけだと繁忙期と閑散期がありスポット的な雇用になってしまうため、通年で作業ができるよう青果部門も展開し、雇用の安定化を図っています。

主に父が肥料部門、弟の祥悟が米部門、僕が畑部門を担当しています。



お米の貯蔵庫だった石蔵を HACCP 対応の精米書に転換し
飲食店や施設への納入までを一貫して行う。

従業員さんについて教えてください

正社員が7名、パートが5名です。

繁忙期は求人雑誌で募集したり地元の女性グループが定期的に加勢に来てくれるので助かっています。

土日のみ働きたい高校生や、逆に日曜休みたい人や、好きな時に短時間働きたい人など様々なニーズに合わせて働いてもらえるよう、勤務体制は柔軟にしています。社員については、意見を言い合える環境を作りたいと考え、圃場近くに事務所を設置し、定期ミーティングを行うようにしています。

作業効率化のための機械化や提案を積極的に取り入れるようにしています。



大型トラクターを器用に操る吉牟田さん。「今後、若手の育成にも取り組んでいきたいです」

これからの展望

- ・雇用環境の改善のため、農地周辺にトイレ等の環境を整備していきたい。
- ・今後も業務拡大し続けるので「一緒に考え、頑張っていける仲間」が加わってくると嬉しいです。

屋号	合名会社 児玉実次商店
所在地	都城市高崎町大牟田 1247
TEL	0986-62-1313
従業員数	12名（社員7名・パート5名）
栽培面積	米 15ha、受託作業 100ha （ドローン作業、田植え、稲刈り） 畑 20ha